

高退協ニュース

秋意雜記



土佐路も秋になる。テレビに家永三郎先生の姿が映る。教科書検定訴訟判決の日。この碩学の顔に、真の勇氣と日本の良心をしかと見た。

「南京虐殺」「七三一部隊」「中国侵略」の記述訂正要求は「社会道徳上著しく妥当性を欠く」と言えない」と歴史をこねて免罪。歴史の歪曲そのものである。教育の反動的國家統制を正当化する企圖は露骨で、世界史の厳然たる客觀的事実の隠蔽であり、司法の右傾化にはギョクツとなる。

動評闘争後三十年、平和的民主教育何處に行くのか？ 秋雨のわびしさを感ずる。ただ「君が代・日の丸」強制的企圖は良く判る。權力の維新民権と教育の軒計は断固として拒否したい。

北半球の秋（オートム）は人間の初老の意味をもっている。この季節に、木々は美しく紅葉する。生命の維持のため、この自然の営みは賢明である。人間も生命のともし火を最後まで燃やしつづけて、木枯らしの厳しい寒風に対決してはならない。(M・T)

座談会

九月十九日

「出三面する」

教育指導演題として

高退教組

午後三時～五時

最近、日教組の問題、新学習指導要領等、つきつぎと、重要な問題が打ち出される。

会員の皆さんには、いろいろ心配され、いまの現場の状況を知らたいとの御希望も多いと思いきる九月十九日、高退協執行部と座談会を持ちました。

約二時間、崎山氏の司会で、「新学習指導要領の問題点」「職場の実態」「高退協の現状」等を座談に語っていただきました。

これを、機関誌(十号)に掲載しますので、是非読んでいただきたい。

高退協事務局
1989.10
No. 44

高知県高等学校連合教育者協議会
高知市丸の内二丁目一〇
教育会館内 高退協受付
TEL〇八八八二二一六八三
郵便口座番五十一一八九三

「動評処分」

30周年・社団法人集米会

九月三十日

午後四時

一九五九年九月三十日、動評不提出を理由に、狂刃を揮って、四名の高校長(宮本生心、山本広喜、田中耕一、成瀬孝一郎の各先生)を懲戒免職。七名の校長に六ヶ月の停職処分という前代未聞の弾圧を加えてきた。

この日をよく覚えていて、高退協の窪田委員長が企画してくれた。集会は午後四時から、「動評闘争の記録映画」を上映、湯浅、吉川梅原、谷脇、広瀬、刈谷の諸氏によるパネルディスカッションによってあの闘いの意義を明らかにしていった。

そして、かくしゃくたるお姿を見せて下さった生永先生(88歳)成瀬先生(80歳)に花束を贈って御健在を讃えた。

懇親会に移り、老若男女大いに飲み語り、すばらしい集会となった。



ご案内

1989年度

高校・障害児学校教研

目的
高校・障害児学校の民主的教育改革を求め、教職員と父母・県民が力を合わせて研究・討論を行います。

日程
十月二十八日(土) 一時三十分より教科別分科会
十月二十九日(日) 午前九時より記念講演 野辺悦志氏 (東京私大) (東京私大) (教連)

午後 問題別分科会
(会場は両分科会ともに東高校)



このようにして、闘いの伝統が、若い世代に受け継がれていくのは有難い。

なお、高退協の出発者は、

- 生永利正・成瀬孝一郎・田中代・山原健二郎・吉川寛
- 湯浅秀夫・富永三雄・浜田昌俊・田村輝・小川進雄・池川順子・谷山妙栄・中國鉄夫・西森登・坪井幹之・岡田三七郎の各氏であった。

専攻事務局だより

○ 動評闘争に積極的役割を果たし、その後も民主的活動の推進者であった福見初穂氏が他界された痛恨の極です。弔電をうたしていただきました。

○ 八月二十八日、県下ではじめて年金者の組合が結成され、高退協から委員長に西森登氏、書記局長に山崎博幸氏が選出されました。

○ 九月十五日には高退協がはじめて「大運動会」を春野町若草養護学校で開催、組合員のご子弟ともども五百名以上の参加で情熱と若さを力いっぱいブツケていました。高退協は賞品を贈らせていただきました。

○ 高退協会員中内光昭氏が高知大学員に選出されました。大学の民主的発展と益々の活躍をお祈りする次第です。

